

令和8年度第1回総合教育会議 議事録

1 開催日時

令和8年6月25日（木） 13:15～14:45

2 出席者

- | | | |
|---------|-----------|--------|
| (1) 構成員 | 市 長 | 園田 裕史 |
| | 教 育 長 | 遠藤 雅己 |
| | 教育委員 | 佐古 順子 |
| | 教育委員 | 中嶋 剛 |
| | 教育委員 | 船橋 修一 |
| | 教育委員 | 朝長 昭光 |
| | 教育委員 | 宮本 真由美 |
| | | |
| (2) 説明者 | 教 育 政 策 監 | 江浪 俊彦 |
| | 教 育 次 長 | 山中 さと子 |
| | こども未来部長 | 石丸 博子 |
| | 教育総務課長 | 楠本 奈津子 |
| | 学校教育課長 | 梅田 幸助 |
| | 学校教育課参事 | 戸田 朋彦 |
| | 歴史資料館長 | 今村 明 |
| | | |
| (3) 事務局 | 企画政策部長 | 福江 都志 |
| | 企画政策課長 | 長石 弘顕 |

3 協議

- (1) 萱瀬小・中学校の施設一体化について
- (2) 歴史資料館の活用について

4 その他

5 閉会

[資料]

- 1 第1回 新校舎基本構想制定委員会資料
- 2 第2回 新校舎基本構想制定委員会資料
- 3 歴史資料館の活用について

企画政策部長 福江 都志

皆さんこんにちは。定刻となりましたので、ただいまから令和8年度第1回総合教育会議を開催いたします。

本日司会を務めます、大村市企画政策課の福江と申します。よろしくお願いします。

それでは会議に入ります前に、お手元の資料の確認をお願いいたします。

配布しております資料は、会次第、出席者名簿、配席図、それから本日の議題の協議資料として、1. 第1回 新校舎基本構想制定委員会資料、2. 第2回 新校舎基本構想制定委員会資料、3. 歴史資料館の活用について、以上でございます。不足等ございましたら挙手にてお願いします。

それでは早速、会次第に沿って進めてまいりたいと思います。開会にあたりまして、大村市長 園田裕史がご挨拶申し上げます。

大村市長 園田 裕史

皆さんこんにちは。本日は令和8年度第1回総合教育会議に、大変お足元の悪い中お集まりいただきましてありがとうございます。

また、改めて教育委員の皆様にはいつも大変お世話になり、貴重なご意見をいただき本当にありがとうございます。

それから、本日も市議会や新聞社より傍聴にお越しいただきましてありがとうございます。

今年度1回目ということで、昨年度の経過も含めてご挨拶をさせていただきたいと思います。

昨年度、おかげさまで日経BP社の調査「住み良い街ランキング」で大村市が第4位になったり、「子育てしやすい自治体ランキング」では第1位になりました。嬉しい反面、こうして表に出るということは、そこを厳しく評価されますので当然ながら厳しいお声もたくさん届きまして、心を痛めたり、そうだなと思ったり、いろいろありました。しかしこれは昔から脈々と続く教育行政、福祉行政をはじめとした子育て支援施策が評価されたということで、みんなで一緒に喜んでいいの

ではないかと思っています。振り返れば、ボートの財源を30～40年前からいろんな形で子育て施策に反映させて、平成9年からの第2子保育料無償化など、今では当たり前にやっていることを大村市は30年くらい前から先行してやっていたというイメージ戦略等を含めて評価をしていただいたのだと思います。これを発信することが我々の使命だと思っているので、市民の皆さんも、厳しいご意見をいただくことも本当に有難いですが、自分が住んでいる町がそんなふうに評価をされたことは喜んでほしいなと思っています。そして来年度に向けて施策を反映させていこうということで7年度が締められました。それと同時に、大村市の人口が前年度比で195人減って、55年ぶりに人口を減らした市長にならせていただいて、この55年間を節目として振り返った7年度でした。だからこそ当たり前ですが、子育て支援策や教育施策はもちろん、高齢者の皆さんがもっと生き生きと元気に囲碁や将棋をしたり、グランドゴルフをしたり、健康寿命が延伸されて長生きしていただくとみんなハッピーだし、結果としてもう1回人口が伸びて10万人達成にも繋がると改めて4月1日に思われました。だからその部分にも力を入れていこうということに気づくきっかけになった人口減少で、ある意味ありがたいなと感じました。大村市は人口が増え続けていたので、これが当たり前だと思っていた部分があって、ありがたいと思っています。そのことに気づかせてくれたので、ここをしっかりと克服して、もう1回ボードみたいにV字回復できるように、数字の回復というより施策が反映されると結果的に数字がついてくるという見方をぜひしたいなと思っています。

そんな中で、この総合教育会議が毎回時間が足りないくらい白熱して皆さんから積極的なご意見をいただいているので、8年度も予算の施策に反映をさせていただきます。

一つは小・中学校の給食費無償化が4月1日か

ら始まりました。これは私が3期目の選挙のときから言っていたのですが、給食費の無償化は国がやるべきだと思っていました。なぜかという、大村市だけがやっても大村市に引っ越してくるだけの話で、国として出生率が上がるとか、子育てしやすいというパラダイムがシフトするわけではないので、国がやるべきと言い続けて、今回小学校については国の制度として開始されることが決まりました。こうなると、小学校は無償で中学校は同じ義務教育なのに無償じゃないのはおかしいから、中学校は市でもって一緒に始める。これは昔から、もし国が小学校しかやらないなら中学校も一緒にやると決めていたので、今回一緒にやらせていただきました。

それともう一つは、この前議会で答弁したときに、県内の小・中学校で体育館・武道場にエアコンを設置している自治体がたしか1.2%くらいで、全国でもまだ少ないと思うのですが、市議会から提案をいただき、大村市はそこを先行してやらせていただくことに決定しました。教育長もそこには強い思いを持たれていて、せっかく改築等もやらせていただいているので授業でもっと体育館を有効に使っていただきたいのと、地域の方にも体育館を開放して使ってもらう場合、絶対エアコンがあったほうがいいと思います。避難所という使い方ももちろんできますが、集会等も含めて学校活動にもっと体育館を使っていただければいいなと考えています。今年度が設計、来年度から再来年度で設置が完了します。建替えをしているところは建替えに合わせてになりますが、全国に先駆けて進めることができます。

もう一つは、長崎大学の情報データ科学部を、私の力不足で誘致できませんでした。大学の誘致は本当に長年の懸案で、その後も大学誘致検討委員会を作って誘致を検討しようとしていましたが、当時から議会では、国公立大学と有名私立大学で特色があるところでない生徒が集まらないので、誘致はなかなか難しいとは言っていました。今回、

武雄アジア大学が140名の定員に対して、初年度入学者が37名で、入学率が26%となっています。非常に大学経営が厳しい中で、いろんな特色を私大が出していかなければいけない。今度総合科学大学が高専を作るとのことですが、そのように特色を出していないと私大は難しいので、大学の誘致というのは本当に慎重なのだと改めて思われました。

そんな中、我々は昨年姉妹都市の関連でスタンフォード大学にお邪魔をさせていただいたのですが、そこに日系のゲイリー・ムカイさんという教授がいて、ものすごく仲良くなって、一緒に事業をやろうということでお話をして、スタンフォード大学と連携して、「Stanford e-Omura ~GOKOKAN~」という、大村市内の高校生がスタンフォード大学の授業をオンラインで無料で受けられるという事業をスタートさせました。さらに、年10回のプログラムを受けて、成績優秀者2名は来年のアメリカに派遣する際、大村市が補助をしてスタンフォード大学で開催される表彰式に参加できます。これは本当にすごいことで非常にありがたいと思いますし、ゲイリー・ムカイ教授とのご縁だと思います。そしてゲイリー・ムカイ教授にも大村市のポテンシャルをしっかりとご理解いただいて、通常は都道府県か政令市ぐらいしかこのプログラムをしていませんが、そこを実現することができました。ちなみに、昨年度このスタンフォード大学がしている多文化共生社会のプログラムで成績優秀者としてスタンフォード大学で表彰を受けたのは大村の子です。そして今年度からは高校生に無償で提供できるという形で、大学を誘致できずとも、それより大きいスタンフォード大学との連携事業を始めることができましたので、ここをしっかりと生かしていきたいと思っています。また、この事業には「五教館」という名前をつけています。五教館はご承知のとおり、大村高校の前身である藩校の名前で、そこに幕末の活躍した偉人がたくさんいて、そのマインドを今の高

校生に持ってもらいたいということと、大村高校を世に知らしめるためにも、「五教館」という名前をつけさせていただいています。

最後になりますが、佐古委員はソロプチミストでご活躍をされていますが、そのご縁もあって先日大村東ロータリークラブさんが、テルマエ・ロマエの作者であるヤマザキマリさんをお招きして講演をされました。実は8年前、東京にいる私の友人に、ヤマザキマリさんが講演で「次は天正遣欧少年使節を書きたい」と言っていると聞いて、私と副市長でものごとくアプローチして、事務所にも電話やメールをしていたのですが、当時はコロナもあってなかなか実現できませんでした。それが今回大村東ロータリークラブさんがメールをしたら「いいですよ。」と言って来てくれまして、8年越しの願いが叶いました。その中で、4少年のことも触れていただいて、そして今度姉妹都市を結ぶヴィラヴィソーザのことも触れていただいて、4少年の物語を書きたいと、ご本人のSNSで明言されています。聞くところによると、漫画を書く前にシナリオを全部書き落として漫画にするため、構想を書き上げるのに時間がかかるのだそうです。それだけ熱心に4少年のことを思っていて、今度書くと明言していただきましたので楽しみ待ちたいなと思っております。このヤマザキマリさんの講演、ヴィラヴィソーザの姉妹都市追加、そして毎年の相互ホームステイ、スタンフォード大学の海外事業も含めて、議会でも市民の中でもすごく話題になっていて、前からある話ですが、改めて五教館や4少年にスポットが当たっているなと感じています。これを考えたときに、体育館へのエアコンの設置や、ボートの財源で学校の改築を行っていることなど、大村市がいろんな取組をしていると外から言っただけのことも多いので、この機会をチャンスととらえて、4位・1位のこともありますし、しっかり取り組んでいきたいと思っております。

大変長くなりましたがもう一つだけ、4位や1

位と言いながら、分娩施設の減少や待機児童の問題についてなど、たくさんお叱りをいただいています。今回、石丸部長が子ども未来部長に着任いただきましたが、分娩施設について、どうやって市民の方に安心していただけるように整理できるかを検討するプロジェクトをもう始めています。今年度中には方向性を出してスピード感を持って対応しようと思っています。また、待機児童も保育所を増やして解消できるようにします。そして、この総合教育会議でもずっと言っていますが、特別に支援を要するお子様の割合が増えてきましたよね。教室に補助員で入っていただく先生の数も、僕が市長になってから3倍ぐらい増えています。また、全国的にですが、大村も不登校が増えています。フリースクールの問題もありますね。コンネ、あおば教室、今度SSRも作りました。一連に子どもたちを取り巻く環境が大きく変わっているので、これをやっぱり大村市として、一気通貫でフォローしていきたい。産前・出産・産後・保育・療育・教育、この中に特別に支援を要するお子様や、不登校のお子様、親御さんの不安なども全部通した015プロジェクトを、こども未来部と福祉保健部、ここに教育委員会がしっかり絡んで、しかも教育委員会に4月から新たに着任した山中次長を座長に据えてスタートさせました。教育長から、いろんな形でその知見を持っている有識者の方を呼んでいただいて話をしたりしているのですが、そのプロジェクトの中で、僕は15までと言ったのに、いやいや、やっぱり18まででしょう。高校を卒業するまで、中学を卒業したあと進学しなかった子など、いろいろな子たちのフォローも考えると、社会に出るまでだから18まででしょうと自発的に協議をしてくれて、今「おおむら018プロジェクト」という形で発展をしています。本当に頼もしいし有難いし、嬉しいなと思っています。これは私が言うと怒られますが、通常こういうプロジェクトをやり始めたら、福祉部門の部長か、こども部門の部長が仕切ってやる

ことが多いと思います。ところが、今回ここに教育委員会がちゃんと入っていて教育委員会に属する部長が、福祉もこどもも含めたところのトップを張るということを、他の自治体の人たちはびっくりしています。それくらい本当に大村市は、教育長をはじめ当初から連携が取れていて、その意識がベースにあるから、そういうことができているのだと思います。うちの管轄じゃないからとか、押し付け合いになるのではなく、よし、みんなでやろうということで、我々が思っている以上に大きな話になっているみたいなので、ぜひ新聞記事にも大きく書いていただきたいなと思っていますところでは。

大変長くなりましたが、そういう形で8年度もまた皆さんと一緒に始めていって、こうなってくると次年度がどういう形で進んでいくのか、もう9年度に向けての協議が始まっていると思いますので、ぜひ活発なご議論をいただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。本日は誠にありがとうございます。

教育次長 山中 さと子

1点だけ確認ですが、空調のデータについて全国の公立小・中学校の体育館及び武道館の空調設置率は22.7%で、長崎県内で見ると1.2%でした。

企画政策部長 福江 都志

それでは次第「3 協議」に移りたいと思います。ここからの進行は、大村市総合教育会議運営要領第3条に従いまして市長が行います。園田市長、よろしくお願いします。

大村市長 園田 裕史

それでは協議に入ります。

協議事項（1）萱瀬小・中学校の施設一体化について、でございます。担当課から説明をお願いいたします。

学校教育課長 梅田 幸助

それでは、施設一体型萱瀬小中学校校舎建設に関しての現在の状況をお知らせいたします。

資料1の1ページの2.校舎建築までのスケジュ

ールをご覧ください。施設一体型萱瀬小中学校については、令和8年7月から基本設計の作成を開始することから、それまでに萱瀬小中学校に通う児童生徒の健やかな成長と萱瀬地区の地域活性化に役立つ校舎とするため、現在、学校や地域の代表者のご意見を踏まえながら、施設設備の基本構想の作成にあたっております。今回資料は、計3回開催しましたうち、新校舎基本構想制定委員会の紹介と、第2回の際に使用しました資料を、右上に記載のとおり資料1・資料2としてお渡ししております。

それでは資料に沿ってご説明いたします。

まず資料1の1ページの3.組織をご覧ください。基本構想の作成に向けて、2つの組織を作りました。まず1つ目が、太枠にしております基本構想制定委員会、その下の4.基本構想制定委員会についての（1）に記載しておりますように、構成委員として萱瀬地区から保護者、地域の代表の方々、計11名の方にお集まりいただき、下部組織である基本構想検討部会で出された意見も踏まえながら、施設設備の基本構想を検討しております。2つ目が、その基本構想検討部会です。現在の萱瀬小中学校の管理職員及び教員の代表者を集め、教育施設としての機能に特化し、質の高い教育の実現に向けた施設設備について検討し、5月7日から6月10日までの計3回の会議の中で、小中学校それぞれから出された意見のすり合わせまでを行い、基本構想制定委員会に報告を上げております。

資料1の2ページ、（2）開催予定と検討内容をご覧ください。基本構想制定委員会は、5月8日、5月27日、6月12日の計3回開催しましたが、第1回で、会の目的や協議事項、予定の確認を行った後、第2回の開催までにアンケートにてご意見をいただき、第2回の制定委員会で出された意見を確認し、意見交換を行いました。そして、第3回の制定委員会で、基本構想案の承認をいただいております。なお、第3回の基本構想制定委員会において、承認をいただいた基本構想案につ

きましては、この後の教育委員会でご検討いただき、最終的な基本構想として承認をいただく運びとなっております。

続きまして、資料2についてです。第2回新校舎基本構想制定委員会の際、委員にお配りした資料です。各委員からアンケートによりいただいた意見をそのまま審議して記載したものとなります。大きく見ますと、資料2の1ページには、1. 特色ある学校づくりにつながる方針として、基本方針につながるご意見、「多様性」をキーワードに、樹(き)の「ぬくもり」を生かしながら、人や地域に優しい学校づくりを目指す。それから、これまでの取組である「小中連携」「異学年交流」「地域とともに」のさらなる強化を図る、このようなご意見をいただいております。

続いて資料2の2ページをお開きください。2. こんな学校にしたいとして、全体を貫く基本的な考え方・コンセプトをそこにお示ししております。

それから、3ページから4ページにかけては、3. 施設、設備に係るアイディア等について、具体的なアイディアを整理して記載しております。

そして最終の5ページをお開きください。第3回の制定委員会で、基本構想案を形にしたものを提案しなければなりませんので、この第2回の制定委員会の中で基本構想に盛り込む事項を提示し、ご意見をいただきました。

それでは、資料をご確認いただき、協議をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございました。この萱瀬小中学校の施設一体化で、新たな整備というのがとても素晴らしいので、起爆剤にできたらと思っています。この間市議会の中で、人口が減ったものですから30年前と比べて今はどうなのか、また、10年前と比べて今はどうなのかを、市内8地区で数字を出してほしいと言われ、企画政策部で改めて出しました。30年前から今、10年前から今も同じように8地区ほとんどが増えている、減っているのが鈴

田と萱瀬と松原でした。そして私が驚いたのは、福重が30年前から今の数字が、146%ぐらいなのです。つまり車両基地駅、都市計画道路の池田沖田線、福重小学校の校舎改築、それに伴う宅地造成などによる人口増ということかなと思っていて、学校が建て替わったりすることは、こんなにインパクトがあるのだと改めて実感しました。今回この萱瀬小中学校の改築が、地域活性化の一つの起爆剤になったらいいなと思います。来月から地区別ミーティングが始まるのですが、萱瀬地区からは毎年、萱瀬の人口減少に対してのご意見が出ます。そのことを補完できる一つの起爆剤だなと思います。教育委員会を中心に地域の方ともミーティングを重ねていただいているので、地域と一緒に作っていく学校ができていくのだと私も期待しています。

そして私は当初からせっかく萱瀬スギもあるし、萱瀬のあのロケーションなので、全部木造で作ってほしいと言っているのですが、最後どうなるかは今からまた議論されると思います。当然、木造にしたらコストが上がるかと聞いていますし、広いスペースがなかなか取れないなど、いろいろ課題もあると思います。でもせっかく自然に囲まれて、大村初の小中一体型で、おそらく県内に木造校舎はないので、萱瀬にこそと思っているのですが、資料2の4ページの17番に「木造にこだわる必要は無い。子どもたちはそもそも大自然の中で生活しており、木造校舎に関心は無い」とか、「基本鉄骨で木材をうまく使う」など書いてあるので、参ったなと思っています。ただ、中途半端ではなくて、やり切らないと伝わらないのではないかと考えてはいます。教育委員会の場合は、先ほどありましたように具体的な案をまとめられますが、ここは総合教育会議なので、ざっくりばらんに話ができればと思います。せっかく新しく建て替わる、はじめての小中一体型の校舎なので、小中一貫校ではないし、小中連携校でもないのですが、柔軟な教育ができるのは間違いないので、非常に優れた

小中一体型の学校になると思っています。加えて福重小学校みたいに、萱瀬地区を中心に人が増えていくといいなと思います。

佐古委員から何かないですか。こんな学校にしたらいいのではないのでしょうかとか。

教育委員 佐古 順子

今感じたことは、次の世代のために、今の時代に最高のものを作ろうと思えるといえますか、そういう話し合いができる場があるというのが幸せだなと思いました。この間も図書館で講演会がございましたが、あの建築家の先生も耐震性などについてお話されていて、教育長が青森に視察に行かれました。皆さんが同じ方向を向けるというのが幸せなことだと感じます。先ほどの教育次長の018プロジェクトも皆さんが同じ方向を向いているように、私たちが今できるのなら、経費が上がるが、それがもし今最高のものと思えるのであれば、取り組みたいなと思います。

大村市長 園田 裕史

そうですね。ありがとうございます。

宮本委員、何かありますか。

教育委員 宮本 真由美

私も木造校舎には賛成で、自分も木造の家に住んでいるので、やっぱり木というのはすごくぬくもりを感じます。私は以前、自宅の方で教室をしておりましたので、子どもたちが勉強する前にわざと早く来て、木のところでゴロゴロしていて、やっぱり木のぬくもりや感触というのはすごくいいのだと思います。

また、萱瀬の小・中一体型が今の時代いいなと思うのは、自分も今ボランティアをして思うのですが、子どもたちも小学校・中学校が同時に接する機会もあるだろうし、保護者もいろんな世代の保護者が集まるから、私はそれが素晴らしいと思います。自分もこの歳になると、なかなか自分より上の年代の方と接することがなくなったり、逆に自分よりも20、25歳年下の保護者の方と接する機会がほぼなくなって、でも接するといろんな意

見が出てきたり交流が生まれるので、子どもたちも親が変わったら子どもも変わるかなというのが自分の思いなので、保護者のいろいろな世代の繋がりが持てることは本当に素晴らしいなと思いました。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。今まさに異年齢というか、地域で子ども会が減っていたり、町内会の加入率が市としても課題なのでそこが大事ですし、小中連携して一体型でいいなと本当に思います。

教育委員 朝長 昭光

木造建築に関しては、今耐震性とか、広いところは作れないのではないかと言われていましたが、普通の木造建築というのは、基本はやっぱり鉄骨で、その上に木を付けているそうです。しかし、ある会社が国の基準がもう今は違うと言って、自分のところで耐震をしている。例えば3階建てや5階建てでもやれるのだということを証明して、国の基準を今その会社を変えていっているらしいのです。しかも、だいたい木造といえば大きな木がないと駄目だと思うのですが、今はそれよりも薄い板をたくさん重ねて作った方が、より耐震性が強いというのも出てきていて、かなり技術的に進んでいます。だからもう今は僕たちの頭の中にある木造建築とは違うものが新しくできているので、それをどんどん活用するのにいい話だなと私は逆に思っていて、しかも今資料を見たら円形校舎という意見も出ているようなので、さらに面白いのではないかと思います。テレビで言っていたのは、広い空間ももちろん作れるし、経済的にも今は薄い板でしていくので、かえって鉄骨よりも安くできるかもしれないそうです。何せ今からは5階6階のマンションも木造でできるということで、すごいなと思っています。以上です。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。今朝長委員が言われたように、板を重ね合わせて強度を作るCLTという工法など、今非常に技術が発展しているようで

す。そこら辺も含めて研究して、地域のご意見等もあると思いますので検討してほしいと思います。

船橋委員、何かありますか。

教育委員 船橋 修一

木造では大変苦勞した経験があります。実は私は11年前に波佐見町から融資されて、ブリスヴィラ波佐見という木造のホテルを作ったのですが、ブリスヴィラ波佐見は新築の木造ホテルでは九州最大の建物なのです。木造の旅館とかもありますが、それはもう今現在の基準の前に作ってあるので、耐震の構造などは基準を満たしていないのです。古民家を改装したものも基本的に満たしていないのですが、新築となると耐震なども現在のもので適用されるため、消防署も前例がなく大変苦勞しました。また、設計の段階で当時は木造の強度計算を出すCADのシステムが使えないので、ものすごく時間がかかりました。だから萱瀬の校舎がもし木造となった場合は、まず防災や強度など事前に調査等を行った方が良いのではないかと思います。

大村市長 園田 裕史

教育の部分では何かご意見等ございませんか。

教育委員 船橋 修一

今、小中学校はICT教育が不可欠になっていますよね。既存の教室の設計は、どこも同じ規格でされるのです。しかしICTルームだけは、少し広めに作りたいと設計の時点で言われた方がいいと思います。それと気にしなければいけないのは電源の問題です。今の学校はコンセントが少ないので、ICTに対応するような電源を設置しないと、特に古いところはもともと少ないので非常に苦勞します。木造の建築をするところが、学校建築の経験があるとはあまり思えないので、施主側から設計や施工をされる方に、現在の教育はパソコンやタブレットを使っていることなどを説明して要望しなければいけないと思います。木造設計には長けていても、今の学校の状況をご存じかどうかは別の問題です。そして、木造だろう

と何だろうと、誰のための学校なのか。やはり萱瀬地区に住んでいただく方の目線で作るべきではないかなと思います。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。中嶋委員、木造に限らず教育についてなどもお願いします。

教育委員 中嶋 剛

まず資料1の1ページ目に組織がありますね。教育委員会が一番上にあって、基本構想制定委員会、そして基本構想検討部会と3つあります。この3番目の基本構想検討部会というのは教員だと思うのですが、どの学校のどんな方なのかが書いていないので分かりません。これをまず教えてください。

学校教育課長 梅田 幸助

萱瀬小学校と萱瀬中学校の教員の代表ということになります。

教育委員 中嶋 剛

2校ですね、わかりました。それで教育関係に特化した部会だと考えるわけですね。その上に、基本構想制定委員会がありますが、この中になぜ一般教諭の代表を入れなかったのか、私は少し引っかかりました。学校を代表して校長先生やPTA会長がいることは分かります。しかし、一般の先生もこの制定委員会の中に、代表として2名なり3名なり入れて検討した方が良くはないか。それはアンケートとかをちゃんと取っていますと言われるかもしれませんが、やっぱり現場を預かっている先生方が良いアイデアを持っていると私は思うのです。そこが気になりました。

それと、資料2の1の基本方針の(1)の中に、この学校は特別転入学制度を導入すると書いてあります。黒木小や東大村小、松原小がやっている特別転入学制度をここでも利用するということですね。そこで一つ引っかかるのが、今黒木小に行っている特別転入学の生徒が、萱瀬小中学校がこれを導入すると、おそらく私は萱瀬の方に行くのではないかと思います。そうすると黒木小学校

は地元の方だけになって、本当に存続ができるのかという心配があります。特別転入学をする場合、親としてはやっぱり近い方がいいですね。将来的には黒木小はここに吸収されるかもしれませんが、地元から言わせたらやっぱり残してほしいという意見が多いです。だから、その点の兼ね合いをどうするのか。私は本当に大きな問題だろうなと思います。それと、この特別転入学制度を利用するとしたら、私は坂口あたりも萱瀬の校区自体に含めたらどうだろうかと思います。これは個人的な意見ですけど、そういう面も考えられはしないかということです。

それと、この学校は何階建てを目指しているのかどこにも書いていない。2階建てなのか、3階建てなのか分かりません。大体何階建てで考えていらっしゃるのでしょうか。

大村市長 園田 裕史

今中嶋委員からありました、何階建てかということと、黒木小とどうなのか、今の時点で何かお答えできる内容があればお願いします。

教育政策監 江浪 俊彦

何階建てかというのはまだ決まっておりません。この基本構想をもとに設計に落とし込んでいくという考え方でおりますので、今の段階ではまだ決まっていないということです。

それから特別入学制度については、私たちも中嶋委員のお考えのような危惧はあったのですが、黒木小学校には黒木小学校の良さがあって、その特色や、小規模がいいという子どもたちもいるのではないかということで、そこはそこで活用していいのかなと思っています。

それと、せっかく萱瀬小中学校施設一体型を作りますので、そこにキーワードとして「多様性」という言葉を使わせてもらって、色んな子どもたちに市内全域から来てもらう。そして地域の方も活性化を望んでいらっしゃいましたので、そういった意味で特別転入学制度を導入するということで話を進めております。

大村市長 園田 裕史

校区について行政サイドから申しますと、竹松小学校のマンモス解消を教育長に進めていただいて、今福重小学校と、竹松小学校の宮小路3丁目と黒丸を整理して、いい形でスタートできているので一定のマンモス解消が図られていくと思います。市議会でも当時から、坂口や小路口などの校区変更も含めて考えていくと、竹松小のマンモスが解消されるのではないかというご意見がありました。今のところ明確に我々サイドとしては特に議論にはなっていないので、そこも含めて今後教育委員さんの中でも話題にさせていただいたら非常に有難いと思います。

また、私は昔から萱瀬のときはぜひ木造にと言っていました、もちろん誘導したつもりもありますが、この後の教育委員会や、保護者、検討部会、構想委員会等のご意見もあろうかと思います。アンケートで見れば、別に木造にこだわる必要はないと書いてあるだけですが、その背景には冒頭に言ったような、木造だと広い部屋を取ることがなかなか難しかったり、フレキシブルに動かしていくことができないなど、いろんな課題があるようなのです。ただ、木造だから使いにくいけど、それがいいんだ、ということでも別にいいのかなと思っています。一方で、課題があるということも考えながら最終決定をしていただければと思います。最終予算も絡むので、当然我々も入ることになると思いますが、くれぐれも誘導したつもりはありませんのでフラットにまた議論いただきたいと思います。

教育長 遠藤 雅己

一応私の方で、学校施設整備室2名と六戸学園を見に行ったのですが、ここで安藤耕作さんという1級建築士、構造建築士の方とお会いしました。この方は文科省推薦の方で、今回木造建築の第一人者ということで大村にも来てもらって、ミライオン図書館で講演をしていただきました。木造建築の問題といえば耐火と耐震ですが、これはもう

6階建てのマンションまで建てられるような構造建築になっているので大丈夫だということです。そして木造建築の一番の良さは、構造上、予め決められた法則どおり倒れていくなどというのが分かっていることだと言われました。木材と金属とのハイブリッドでもいいのだけれど、十分木造でもできる。少し高くなるけど、そちらの方が子どもたちのアレルギー体質やストレスなどを考えると、やはり木の構造にした方がいいということです。

また、義務教育学校と施設一体型はどう違うのかについてですが、義務教育学校は、ある程度小中一緒にして職員の合理化を行います。だから人数が減るのです。でも一体型はそのままの人数で、校長先生が2人、教頭先生が2人いて定員減はしませんので、みんなが子どもたちの面倒見ることができます。

最後に、六戸学園の良いところは、「4・3・2の教育」です。4というのは小学1年生から4年生までで、学級担任制です。次の3は小学5年生から中学1年生までで、一部教科担任が入ります。そして次の中2・中3は完全に教科担任制です。このような形式で、これも萱瀬の方から要望が出てきているところです。以上です。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。ぜひまた議論していただければと思います。

それでは次の協議事項（2）歴史資料館の活用について、でございます。現状と、今後更新していくタイミングもあって今回テーマにしていますので、担当課からお願いいたします。

歴史資料館長 今村 明

それでは資料3になりますが、歴史資料館の活用についてご説明いたします。

まず1ページ目の1.利用状況としまして、館の目的や活動状況についてです。（1）目的では、条例に書いております設置目的として、市の歴史に関する資料の収集、調査、展示、市民の利用とい

うことを特記しております。館の方針として、展示・教育普及・保存継承の3つを活動の柱としております。（2）は開館してから現在までの入館者の状況です。令和2年度から長らく3万人弱というところで推移してきましたが、令和7年度は何とか年間3万人を超えることができ、特に夏場は非常にたくさんの方に来ていただいております。

（3）業務内容ですが、①展示につきましては2つの部屋がございまして、常設展示室にしましては、固定の展示で原始・古代から時代を5つに分けて、現在の歴史資料に、模型や映像を交えて楽しく見てもらえる展示を行っております。次に、2ページ目の企画展示室でございまして。こちらは2ヶ月程度のスパンで展示内容を入れ替えながら、特別展や企画展を行いまして、様々なテーマをより詳しく知りたい方向けに展示を行っております。子ども向けや、学校の歴史クラブの展示等も行っております。表にありますのは、各年度の特別展の実施テーマと、企画展、テーマ展等の回数になります。毎年1つ特別展を開催しまして、それに付随したテーマ展や講演会等を展開するようにしております。特別展のテーマは、石井筆子さんであったり、市制80周年、終戦80年など、皆さんに知ってほしいテーマを選んで展開しております。次に②教育普及活動ですが、こちらは学校への出前講座のほか、中央公民館と連携した市民講座、各小中学校で郷土史クラブの授業などを行っております。また、この他では近年、ミライo n図書館と連携した講座やおはなし会等の催しに力を入れて、ミライo n全体で館に来てもらえるような取組を行っております。次に③資料収集保存についてです。貴重な歴史資料を後世に伝えることが館の重要な役割となっております。現在主に市民等からの寄贈によって、市内外の旧家からの資料を収集し、整理を行い良好な状態で保管をして後世に伝えていくような活動をしております。開館以降の寄贈点数は表に示したとおりですが、非常にたくさん寄贈していただいております。最近特に

戦時中や戦後の資料の寄贈が増えております。これはこちらから呼びかけをして、ぜひ寄贈してくださいということで行ってききましたので、旧家の世代替わり等も含めまして寄贈いただいているものです。今後また昭和の時代というのがテーマになってくると考えているところです。

続きまして3ページになります。もう1つ展示室の方にシアタールームというものがございしますが、現在このシアターの映像コンテンツの見直し作業をしておりますので、これについて概要を説明したいと思います。

シアターでは現在、天正遣欧少年使節のミニ映画と、南蛮屏風図を動かすデジタルコンテンツの2本の上映を行っておりますが、このうちデジタルコンテンツの方を新しいコンテンツに入れ替えるという計画をして、検討を進めております。(2)の経緯としましては、令和2年度市議会に対して見直しを図ることを説明し、これまで作業を進めてきたところです。(3) 現在、見直しの方向性として教育委員会内で検討し、テーマを「学び」としまして、映像で大村の歴史全体のイメージを膨らませ、展示室に誘うようなものにしたいと考えています。そして市内の史跡や空撮を交えて、ミライオンだけではなく、市内の歴史や遺産へ興味を持っていただき、またそこへも足を運んでもらえるような映像ができればと考えております。映像を通して、市内の史跡や歴史遺産、郷土芸能等への興味を誘うようなものにできればと、今現在での方向性を持っているところです。(4) は今後の作業の進め方になりますが、現在、ここまでの内容について教育委員会内で検討を進めてまいりましたが、今後は庁内の関係課に広げまして、担当課とのワークショップを行って、内容の意見交換や様々な関連のテーマ、または各課で持っている映像資料等の情報をいただきまして、仕様書づくりにつなげていきたいと考えております。また、より魅力的な映像とするために、外部の有識者の方々にご意見をいただくことも検討しております。

今年度からワークショップを開催し、早ければ来年度制作に取りかかるようなスケジュールを現在想定しているところです。続いて4ページは現在の映像展開のイメージになりますが、3面シアターでの映像で、その下の表は大村の各時代の象徴的なテーマと、関連の場所等を挙げております。こういった場所や内容、事柄を映像にして、象徴的に見ていただけるような映像をたたき台として考えております。その下がそれぞれのテーマの映像になっております。以上が現在の活動状況や、コンテンツの検討状況になります。皆さんのいろんなご意見をいただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございました。今後シアターのリニューアルについて庁内でも協議をしていきますし、ぜひ私としては幅広く教育委員会、教育委員の皆さんの率直なご意見やアイデアを委員会の中でまた揉んでいただければと思います。皆さんは何度も図書館に行かれたことがあると思うので改めてですが、まず天正遣欧少年使節は、MAG Iという映画がネットで見られるのですが、本当に素晴らしい映画です。伊東マンショ役で主役の野村周平さんをはじめ、吉川浩二さんや緒方直人さんなどすごい方々が出演されています。本当にいい映画に我々大村市だけが協賛してしまして、クレジットも大村市だけが入っているため権利を持っているので、シアターで流れるミニ映画を作れているのです。あれは本当にいいもので、そのまま残されるのでいいなと思っています。そのあとのチームラボの南蛮屏風図も本当に素晴らしいもので、当時は先駆的にチームラボのこのコンテンツを入れましたが、まだまだチームラボはドバイとか世界中にいろんなシアターを作っていて、世界から評価をされているところなので、非常に面白いコンテンツではあります。ただ、これまで市議会の中でも議論があった中での見直しなど、当然維持管理費がかかってくるのでいつかはリニュー

アルをしなければいけないし、その時期に来ているのかなと思います。せっかくリニューアルをしますので、ここからは私の考えですが、どちらも450年前の4少年にまつわるものなので、今回スタンフォードの名称を五教館としていて、石井筆子さんや、渡辺昇・清、楠本正隆など、いわゆる大村小学校の校長室のとなりに掲げられている人達は改めてすごいと思っていて、やっぱり450年前はもうMAG I の映画があるので、ここに幕末の部分の分かりやすくできると、さっき館長が言われたように常設展に誘うことにもなっていくかと思っています。当然、原始・古代からとかいろいろあるのでしょうけど、そんなことも含めて3本立てぐらいに、原始・古代、450年前、幕末のような流れがあるといいのかなと思います。自分も先日プライベートで熊本城に行きましたが、熊本城の中のコンテンツも非常に面白いもので、昔の熊本の町並みが、チームラボみたいに全部光がガラッと変わったら現代にガラッと変わるというものでした。そういうアイデアもいろいろ見て回ったりして、ぜひ今後協議していただければと思います。私が1個考えていたのは、「何でも鑑定団」のナレーションをされている方に喋ってもらえば、ものすごいイメージがつくと思うのです。聴覚にも訴えるような、この方が例えば「渡辺清の娘である石井筆子が・・・」とか言ったらすごく膨らまないかなと思って、耳がとても大事だなと「何でも鑑定団」を見たときに思いました。

エンターテインメントであり、アートであり、歴史も含めたものが新しくシアターでPRできればいいなと思っています。

それでは福江部長にマイクをお戻しします。

企画政策部長 福江 都志

それでは、次第「4 その他」に移りたいと思いますが、何かございませんでしょうか。

教育委員 船橋 修一

5月12日に、初めて近畿大学経営学部で講義をしてまいりました。バックキャスティングについ

ての講義をしてほしいということで180人の部屋を割り当てられたのですが、350人の申込みがあり180人しか入れないので、もう1回やらなければいけないという話になりました。バックキャスティングの話については、明日もベテランの教員の方々に講演会をします。講義を聞いた学生からのレポートをデータでいただいたのですが、近大で聞いた講義の中で一番面白かったと言われました。

教育長 遠藤 雅己

明日は10年経過した教員の中堅研修講座をまず船橋委員に快くお引き受けいただきました。それからもう一つの講座は、長崎空港の空港長に「知られざる空港」ということでお話いただきます。大変楽しみにしております。よろしくお願いいたします。

教育委員 船橋 修一

10月に平戸市教育委員会から依頼を受けまして、小中学校の教頭先生にも同じような研修をしてまいります。

大村市長 園田 裕史

最後に私からいいですか。高総体も大村の子たちが大活躍で、ソフトボールはアベックで男子は大村工業、女子は向陽高校が2連覇ということです。また、大村工業はバレー部が九州大会優勝、その他にもアーチェリー、体操、水泳も活躍をしています。剣道は大村から長崎東高校に行った子がいるのですが、長崎東が初めてのインターハイ優勝ということで、大村の子たちがすごく活躍しています。ぜひ今後も高校のスポーツ、文化に注目していただきたいと思います。

企画政策部長 福江 都志

それでは次回の総合教育会議ですが、次回は8月を予定しております。教育委員会8月定例会と同じ日に開催いたしますので、後日ご案内いたします。

これをもちまして令和8年度第1回総合教育会議を終了します。本日はありがとうございました。